

消防広域化の効果を検証

Mt.Fuji Southeast Fire Dept.

2市1町（三島市・裾野市・長泉町）の消防広域化の効果が現れています。ここでは、地域住民の安全・安心に向けた取り組みを紹介します。※この記事は、2市1町の広報担当課による共同編集です。

〒富士山南東消防本部総務課 ☎972・58001



①



③



②

①管内全域で活躍している特殊車両の「大型水槽車」(手前)と「はしご車」(奥) ②取り壊し中の県営住宅での合同訓練 ③幼稚園児の声援の中、大会に向けた訓練

効果1

現場到着時間の短縮

広域化前の管轄区域（市町境）を越えた出勤が増加しています（下「表1」）。

平成27年の管轄区域を越えた救急応援出勤の年間件数30件が、広域化後の平成28年には299件にまで増加しました。表からは、頻繁に市町の境を越えて救急車が出勤している様子が見てとれます。

119番通報後ただちに、直近の署所からの出勤が可能となったことから、市町境の地域を中心に、現場到着時間の短縮が効果として現れています。11ページ【表2】。

効果2

初動体制・増援体制の強化

災害現場では、初期段階でいかに多くの人員・車両を迅速に投入できるかが重要です。この初動で出勤できる緊急車両が、広域化前の裾野市4台、長泉町3台から、それぞれ6台に増加し、現場活動要員も6〜9人と増員になりました。また、ほかの災害対応などで、管轄の緊急車両が不在のときでも、他署から駆けつけることが可能となりました。

効果3

高機能な車両・資機材の導入

「はしご車」や「化学車」など、普段出勤回数が少ない特殊な車両を

【表1】平成28年の救急出勤8,160件のうち管轄区域（市町境）を越えた件数

	件数（内訳）
三島からの出勤	115件（裾野9件、長泉106件）
裾野からの出勤	94件（三島68件、長泉26件）
長泉からの出勤	90件（三島39件、裾野51件）
合計	299件（三島107件、裾野60件、長泉132件）

共有できました。このほか「大型水槽車」は、山間部での火災や高速道路での車両火災など、水利が不足する現場で、活躍しています。

これら車両や資機材は、高価で維持管理にも多額の費用を要するため、単独の消防本部で運用するには、大きな財政負担がのしかかります。そこで、広域化によるスケールメリット（規模の経済性）大規模化による利益を生かし、計画的に整備を進めています。今年度は、消防ポンプ車1台と救急車1台、資機材搬送車1台を更新しました。

効果4

【表2】現場到着平均所要時間の短縮（消防車・救急車）

(例)

地域	広域化前 (平成27年 4～9月)	広域化後 (平成28年 4～9月)	短縮時間
三島市佐野	11分48秒	8分06秒	3分42秒
裾野市水窪	7分12秒	6分12秒	1分00秒
長泉町下土狩(南東)	6分48秒	6分27秒	0分21秒

予防業務の強化

不特定多数の人が利用する建造物や危険物取り扱い施設の検査・指導をする予防業務の体制強化が図られました。前年度653件だった防火対象物への立入検査実施数は、678件(予定)へ増加しました。

このほか、普通救命講習や応急手当普及員講習など、市民(町民)を対象とした講習会の充実や、消防団の合同訓練の実施など、安全・安心に向けた取り組みを進めています。

Voice

消防職員に聞いた 実感

Q 実際にメリットとして感じたことは？

星屋 新東名は従来長泉町の管轄で、車両火災は長期になることが多く、非番者を招集するなどして、次の出動に備えていました。広域化によりバックアップ体制ができたことで、それがなくなりました。また、水利が不足しがちな車両火災でも、大型水槽車で確保できます。

鈴木 新東名での車両火災に出動しました。また、NEXCO中日本と、高速道路での事故を想定した合同訓練も実施し、これらの経験やノウハウは、伊豆縦貫道での活動に生かされます。

大竹 東名は裾野市の管轄でした。出動の際、裾野市は一般道



星屋 亮
(長泉消防署)



鈴木 雅人
(三島消防署)

から、三島市と長泉町は高速本線からとなり、それぞれ状況を確認しながら現場へ向かえるのは大きなメリットです。

裾野市は山を抱えています。山林火災は長期に及ぶことが想定されるので、心強いです。

Q 現場以外(訓練など)での気づきや、感じたことは？

鈴木 取り壊し中の県営住宅で連携強化に向けた訓練を行いました。広域化でさまざまな技術や知識を持った職員が増え、訓練後の検証会での、意見交換の幅が広がりました。

Q 市民(町民)対象の講習会などでの変化は？

星屋 応急手当普及員講習は、長泉町では行っていないのでした。広域化により、本部(三島消防庁舎)開催の講習会に参加し資格を取得した事業所の方が、これからは職場で普及活動をしてくれます。

Q 管内の住民に伝えたいことなどがあれば

大竹 現場到着平均所要時間の【表2】では、何分何秒短縮とありますが、普通の人には、「たった1分、たった1秒」と感じられるでしょう。しかし、救急救命の初期では、この短い時間がとても重要なのです。火災では、「たった1分」で火が燃え広がってしまうことや、救える命があります。この「短縮された時間」の意味を皆さんに知ってほしいのです。



大竹 勇気
(裾野消防署)